第１回舟橋村地域公共交通会議　会議録（要旨）

１　開催日時

令和８年 11 月６日（金）10 時～11 時

２　開催場所

舟橋村役場

３　会議の概要

(1) 議事

①舟橋村地域公共交通会議規約（案）について

事務局が規約（案）の主な内容を説明し、原案のとおり決定。

②会長及び副会長の選任について

森委員から、会長に村長である渡辺委員を推薦する発言があり、全員の賛同により選任された。続いて、渡辺会長から、副会長に自治会連合会長である深川委員を推薦する発言があり、全員の賛同により選任された。

③舟橋村地域公共交通計画策定に向けて

事務局が、資料「舟橋村地域公共交通計画策定に向けて」に基づき、説明。

④意見交換

会長から、舟橋村地域公共交通計画策定に向けて、特に「課題の捉え方と優先順位」「基本方針・施策の方向性と村内バス実証実験の進め方」「目標値の項目と水準」の３点について意見を求めた。

【加藤委員（富山運輸支局）】地域公共交通計画は、法律に基づき、地方公共団体が地域にとって望ましい旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランであり、作成は努力義務となっている。県内の多くの市町村ではすでに計画が作成されている。目標値は、高すぎると達成できなかった場合にその原因の検証が必要になるため、村の規模や特性に合った目標とし、その達成に向けて何をすべきかを議論してほしい。

【渡辺会長】村の実情に合った目標値を設定すべきとのご意見として受け止めた。

【森委員〈老人クラブ〉】資料 16 ページについて、令和９年度以降、コミュニティバスの料金はどうするのか。

【渡辺会長】本会議は計画の策定について協議する場であり、実証運行中のコミュニティバスの具体的な料金について、現時点で回答することは難しい。資料では、有料・無料のいずれも記載しておらず、今後検討するという趣旨である。料金のあり方は、今後必ず検討が必要な事項と考えている。

【福澤委員（富山県バス協会）】実証運行の利用者が村民かどうかは、どのように判別しているのか。

【事務局】乗車時の確認は行っていない。村内の各地区を乗降場所としており、バス停の標識も設けていない。村内を巡回する運行が中心であるため、村外の方の利用はあまり想定されない。

【福澤委員（富山県バス協会）】運転手はどのように確保しているのか。

【事務局】村の直営で運行している。車両はトヨタモビリティ富山株式会社からお借りし、運転手は、ハローワークを通じて募集し、中型以上の免許を持つ方 3 名を村が直接雇用した。事業者による運行研修や講義を受けたうえで運行しており、運行管理として、毎日、役場で体温確認とアルコールチェックを行っている。

【福澤委員（富山県バス協会）】今後、実証結果を踏まえて検討する際には、鉄道やタクシーの利用者への影響を考慮する必要がある。民間事業者はニーズと安全性からルートを決めるが、行政は地区間の公平性を重視するため、ルートが複雑になったり狭い道を通ったりすることがあり、安全面が心配である。また、鉄道の利用者を現状維持以上とする目標に対し、バスのルートによっては鉄道への影響が懸念される。

【渡辺会長】運行ルートの安全性の確保や、他の交通事業者への影響を考慮する必要があるとのご意見として受け止めた。

【高田委員（富山県タクシー協会）】タクシーは、自宅から目的地まで直接、安全にお送りすることが使命であり、配車の待ち時間を含めても、目的地までの所要時間は短くできる場合がある。バスの運行時間外などにも役立てる場面があるため、資料 13 ページの 3 層構造の交通ネットワークのどこか（例えば「葉の交通」）に、タクシー事業者を位置付けてほしい。

【渡辺会長】タクシーと他の交通手段との役割の違いを、資料でも示した方がよいとのご意見として受け止めた。事務局には、タクシー事業者に関する記載を検討していただきたい。

【住田委員（富山地方鉄道株式会社）】越中舟橋駅のパークアンドライド駐車場は多く利用されており、本日も駅側はほぼ満車であった。実証運行中のバスについて、越中舟橋駅を結節点として組み込み、駅を利用しやすくなるよう検討してほしい。高齢の方がバスで遠方の病院へ行くことには難しい面もあるため、役割分担をしながら、例えば健康な方がバスで駅まで来て鉄道で目的地へ向かうといった利用方法も、計画に記載してほしい。

【渡辺会長】想定される利用方法をいくつか記載してほしいとのご意見として受け止めた。

【事務局】実証運行のバスは、安全面から越中舟橋駅への横付けは難しいが、駅から歩いてすぐの場所に停車し、鉄道と乗り継げるルートを試行している。また、現役世代には親や子どもの送迎の負担があり、その負担をどう減らすかという観点は重要と考えている。

【深川委員（舟橋村自治会連合会）】村の公共交通は鉄道一つしかないが、その「強化」をどのように評価するのか。タクシーとの連携はよいことだが、さらに踏み込んで、富山市の「おでかけ定期券」のように、高齢者が安く出かけられる仕組みの舟橋版を考えてはどうか。利用者にはメリットが必要である。タクシーの免許返納者割引（1 割引）の拡充や、免許返納者への特典なども検討してほしい。評価をしっかり行い、計画だけでなく具体策を示していく必要がある。

【渡辺会長】公共交通の活用を推進するため、他市の事例のように実際に活用される施策まで、具体的に踏み込んで検討すべきとのご意見として受け止めた。

【森委員〈老人クラブ〉】資料 15 ページの「パークアンドライド利用促進」について、具体的にどのように進めるのか。方向性を示さなければ前進しない。一つ一つ議論を積み重ねるべきである。

【渡辺会長】パークアンドライドの利用促進については、より具体的な資料やイメージの提示が必要とのご意見であり、村として試案もあることから、今後共有を図っていきたい。

【島田委員（富山県交通政策局）】公共交通ネットワークを維持し、住民のために良くしていくには、サービスの向上が重要である。鉄道事業者との連携はもとより、図書館や飲食店などのサービス提供者との連携した鉄道事業者による企画切符などが、利便性の向上と持続可能な公共交通につながる。資料 15 ページの施策に、サービス向上に向けた各事業者との連携や、県の計画でも柱としている「住民の参画」の視点を加えてはどうか。また、資料 4 ページの「今後の見通し」について、年少人口の割合が高いという特徴を踏まえ、子どもたちが中高生になって行動範囲が広がることによる移動需要も、視野に入れておく必要がある。

【渡辺会長】サービス事業者との連携によるサービス向上や、住民の参画を施策に加えること、成長する子どもたちを将来の利用者として見通しに記載することについて、事務局で対応していただきたい。

【加藤委員（富山運輸支局）】生活満足度調査の対象年齢は何歳以上か。

【事務局】20 歳以上を対象に実施している。

【加藤委員（富山運輸支局）】高校生が調査対象に含まれていないため、通学の需要も考えられる。計画策定までには難しいかもしれないが、バスがあれば利用するか、悪天候時に利用するかといったアンケートを実施し、需要の掘り起こしも並行して行ってほしい。また、目標値のうち「50%程度」「適正水準」といった表現では、評価の際に困るため、計画の段階で具体的な数値を定めてほしい。目標値は、毎年度の PDCA サイクルの中で、必要に応じて計画を変更することも可能である。

【事務局】3 回の会議を通じて皆様のご意見を反映した計画をつくるため、たたき台として示した数値である。いただいたご意見を踏まえ、評価しやすい数値にしていきたい。

【渡辺会長】多くの貴重なご意見をいただいた。本日のご意見は事務局で整理し、次回お示しする計画の素案に反映していただきたい。